

くりのみ広場

くりのみ広場 令和4年新年号（No.58）

発行・編集：社会福祉法人四幸舎和会 大阪府豊能郡能勢町下田尻20番地 TEL 072-735-2212 FAX 072-735-2213

発行責任者：大崎年史

新年号のキラキラさん

毎号 元気に輝く利用者を キラキラさんとして 紹介します！

新年号は かたやまの赤いやねに通われている キラキラさん です。



index

年頭所感 理事長の年頭所感	P2
法人だより 福祉相談Wi+thより	P3
事業所めぐり この冬の事業所の様子をお伝えします	P4~5
職員コラム セブン&チエリー作業所の支援より	P6~7
お知らせ・ご寄付・ひとこと	P8

年頭所感



新年を迎えた皆様方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

コロナ感染症は下火になったかと思うと新たな変異株が現れ落胆させられます。第6波の到来も取り沙汰される中、入所施設、グループホームをご利用のご家族様には帰宅・面会等の制限が長期化しており、大変申し訳なく思うところであります。法人としては事業継続を最優先に掲げ、クラスターの発生を避けるべく、各事業所に今一度感染症対策に留意するよう指示しております。ご家族様には引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年6月に念願であった2つ目の生活介護事業所『かたやまの赤いやね』を開設することができました。お世話になった関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。そして、くりのみ家族会様、Shikousya サポートクラブ様からは、多額のご寄附を賜り、あらためまして厚く御礼申し上げます。

さて、今年は第Ⅲ期事業計画も2年目に入りました。昨年来セブン＆チエリー作業所の事業規模拡大のため、移転に向け努力しているところではありますが、思うような物件が見つからず、本年も引き続き移転実現に注力してまいります。また、池田市旭丘で運営している2つのグループホームの老朽化に伴い、移転先（昨年12月1日理事会にて承認済み）の確保に向けて協議を進めております。

その他の事業においても一つひとつの課題を着実に解決しながら、ご利用者に安心で快適な生活を提供できるよう努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



令和四年一月
社会福祉法人四幸舎和会
理事長 今 中 喜 明

様々な形で当法人とご縁のある方やご家族に、ご意見やご提言をいただくコーナーです。今回は、昨年6月より開始した福祉相談の相談支援専門員に依頼しました。この半年の思いを聞いてみました。



相談支援に携わって思うこと…

福祉相談With

相談支援専門員 濱 智生

令和3年6月より事業開始し、半年が経ちました。事業所名は利用者の想いに沿って、一緒に考え実現していきたいところからきています。

『指定特定相談支援事業』『指定障害児相談支援事業』の二つの事業をしています。計画相談といわれるもので、障害福祉サービスを申請した障がいのある方や子どもがサービスを利用する根拠を計画書という形で示さなければなりません。その為、その利用者ることをしっかりと把握、理解すること、そしてその利用者の希望を適切に捉えることが大前提となります。この半年利用者理解を少しずつ深めてきましたが、まだまだ道半ばです。

この半年、利用者の方と向き合いながら、いろいろなことを学ばせていただきました。この原稿にも書きたいことはたくさんあります。まだ2ケースしか担当をしていませんが、その2ケースでも社会の様々な課題の縮図にもなっていると感じています。個人情報のこともあり、ここで詳しくは伝えられません。しかし、“もうこれ以上は命の危険がある”“もう限界!”状態からの支援では遅いのです。利用者との面談で「人生失敗しましたわ…」という言葉があり、胸に突き刺されました。利用者を待っているのではなく、アウトーチ型の支援を目指していきたいと思った言葉でした。

子どものときに、困っていることがたくさんあって何か配慮が必要だったのだろうな…。でも周りにも気づかれないまま大人になり、一人で懸命に頑張ってきたのに…。せめて今後の人生、笑顔で過ごせるように支援が出来たら…なんて思います。その為にも、関係する事業所や地域の人と人を一つのチームになるように繋ぎ、そして利用者が「楽しみだな」「頑張ろう!」と思えるような、ワクワクするような計画が立てれるような相談支援者になれるように研鑽をしていきたいです。まだまだ未熟な点が多々ありますが、よろしくお願ひいたします。





実践報告会 2022年採用 内定式



セブン&チエリー作業所の報告です

来年卒業の内定者は、女性2名です

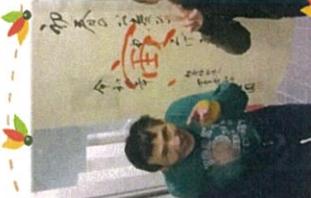
(
元旦
くじのみ図)



(
オーラルケア
くじのみ図)



(
今宵
くじのみ図)



クリスマス
(能勢くじのみホーリー)

MERRY
X'mas!

職員コラム

「コミュニケーションの大切さ」

セブン&チェリー作業所

支援員 山形 直美

四幸舎和会と合併してはや二年が過ぎようとしています。振り返れば新しい事業方針についていけるか不安の反面、前宝山会法人理事長 岩崎 文子さんの口癖「ケセラセラ」何とかなるさも思いつつ過ごした期間でした。



仕事内容も事務中心から支援員に代わり、昨年度は社会福祉法人 北摂杉の子会 山根さん、今年度は川崎医療福祉大学 小田桐先生のコンサルテーションで学びながら少しづつではあるが、実際の支援に携わってきました。自分自身変わったなと思うこととして、合併前の協議で法人としてのプロセスを明示され意識の違いに戸惑い「やっていけるかな？」と不安がありましたが、コンサルテーションや、強度行動障がいの研修を受講し、一から利用者と向き合えるようになった日々を過ごしています。利用者の特性や強み弱みを学びながら、スタッフ同士で話し合い実行に移す。「できるやん！」「なんでやろ？」の繰り返し。

コミュニケーションとは、互いの考え方や気持ち、価値観を伝える行為とあるが、利用者であってもスタッフであっても、依存してもさせてもいけない。

先日社会福祉法人 北摂杉の子会 生活介護 “ジョブサイトひむろ”に一日実習に行かせてもらい、クリーニングの内職を請け負っているグループに入らせてもらいました。個別化されたアセスメントをもとに、利用者に合った日課の組み立てや環境調整がされ落ち着いて過ごされていました。



セブン&チェリー作業所ではカラーたわし作り、仕事の内容的には同じであるが、何が違う？と問われたら、今なら利用者の特性に合った仕事内容や時間の配分、仕事をする環境の違いがあると答えます。同じテーブルであっても利用者ができることをしていれば個別、ほかの利用者がしていることを見て覚える利点がある等の考えが、それは利用者にとって適切な配慮ができているのか？それがトラブルの原因なのかな？と思うようになりました。



なぜ衝立が必要なのか、なぜ皆同じではダメなのか？疑問に思ってたことが、一から学ぶことで理解できるようになってきたと。特性にあったスケジュールの提示や、指示書の提示をわかりやすくする。これらはスタッフにも同じことと杉の子会の中西さん。内職には納期がある今日はできませんでは仕事は成立しません。正職は数名でほぼパート職員であると。誰が休んでも同じ仕事ができるような指示書が必要です。

コミュニケーションは双方向のものであるため支援をする中で意思疎通の難しさを感じる時があります。利用者に合った支援を行うに必要な伝え方もセブン＆チエリー作業所でも今後見直しが課題となりました。

年齢は増していくが、身体も頭脳も退化していく(汗) 元気で頭を使わねば・・・と、思う今日この頃です。



スタッフからひとこと

山形支援員と私は、長年にわたり宝山会時代を過ごしてきたので、合併後、最初のうちは支援について戸惑うことも多かったです。そんな2人が、今年度のコンサルテーションで、ある利用者を一緒に担当することとなり（実践報告で発表させていただいたAさんです）、日々頑張っております。山形支援員は、合併前まで主に事務の仕事に携わっていたため、事務関係のことでの話すことはあっても、支援について話し合うことは、ほとんどなかったので、今、利用者のことで、「ああでもない」「こうでもない」と真剣に話し合っているのが不思議な感じなのですが。

そんな私たちが、この年齢になっても新しいことを学べる環境をありがたく思い、また利用者も新しい環境で頑張っているところを見ると、自分たちもまだまだ頑張れるのではないかという気持ちになるのです。



セブン＆チエリー作業所
管理者 谷口 仁

お・知・ら・せ



★かたやまの赤いやねの案内板が
できました（夢来人の家と一緒に）

★四幸舎和会のホームページを
リニューアルしました
(ブログを更新していますので、
時々訪問してください)

URL <http://shikousya.jp>



寄附・寄贈のご紹介

● 藤田 芳津 様

新米 25kg×2

● 藤田 芳津 様

5,000円

● 桦井 宏史 様

下着(Tシャツ多数)

● くりのみ家族会様
クリスマスプレゼント費用

80,000円

令和3年12月現在

● JA北部 様

米 100kg



● BRANMA KOBE 様

フェリコットクッキー 60袋



ひ・と・こ・と



新年あけましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、2022年となりました！

皆様は今年、どんな年にしたいですか？

ご利用者様にとってもいい年にしたいと思うのですが、いまだ立ちはだかるコロナの壁・・・。

感染者の数に一喜一憂しながら過ごしてきた2年。利用者もご家族、後見人様もいろいろな事を我慢されてきたことと思います。しかし、コロナに屈するわけにはいきませんよね。コロナがあることを日常とし、皆様のお知恵も借りながら日々の生活を安全に充実させていきたいと思います。

くりのみホームサービス管理責任者 黒川 直樹